

NPO 法人近畿水の塾

平成21年度事業報告書

平成22年 5 月

継続的な公開研究会『河川塾』の実施

1. はじめに

2000年(平成12年)9月に八幡市で開催した「川に学ぶシンポジウム in 近畿」の終了後、実行委員が川に関する人のネットワークの継続や知識の習得を兼ねて、摂南大学澤井教授を中心にスタートし、2002年(平成14年)年8月よりNPO法人近畿水の塾の事業の一つとして継続している。

2. 実施内容

河川を楽しく、幅広く、実験・具体例(フィールドとしてピオトープづくりや河川蛇行実験など)を併せてわかりやすく学ぶこと、様々なセクターからの受講生が時の話題・情報を提供する。

第1回は2000年11月に始まり、2010年3月の定例会で100回を迎えた。受講生は、学生・行政担当者・コンサルタント・市民など会員及びその紹介を受けたもので、2000、2001年は河川の基礎工学シリーズ、特別フィールドシリーズ(ワーキング)、2002年はマイリバーシリーズ、2003年は河川関連法(自然再生から淀川を例とした河川整備計画)、2004年は淀川の整備計画と水資源、付替え300年を経た大和川など、2005年は琵琶湖・淀川、都市と農、市民参加型公共事業など、2006、2007年はマイジョブ&リバーとして会員の仕事と川への関わりなど、2008年はマイジョブ&リバー、流域委員会シリーズ、古老に聞くシリーズなどを中心に展開した。2009年はマイジョブ&リバー、番外編を中心に、10年を経て記念すべき第100回の記念企画を行った。

回	月/日	内 容
91	2009/4/11	フィールド版河川塾 堺市北西部を見学など (西河 嗣郎)
92	6/26	ピコ水力発電の現状 (竹尾 敬三)
93	7/21	地域環境デザインとしての桂川流域ネットワーク (下村 泰史)
94	8/20	新たな公による地域づくり(石塚 昌志)
95	9/29	神戸つれづれエコアップ(田中 充)
96	10/28	低炭素社会に向け、東吉野村と行う地域連携について (船本 浩路)
97	11/24	米国のダム撤去と日本初の赤谷ダム撤去、そして石津川 (太田 勝之)
98	12/19	拡大版河川塾 宇根豊さんと映画「たんぼ」をみて農と自然を語る (宇根 豊)

回	月/日	内 容
99	2010/1/26	滋賀県版治水政策 (瀧 健太郎)
101	2/25	古代大阪の治水事業 (藤井 薫)
100	3/27	拡大版河川塾 第100回記念 女性技術者の視点で語る「環境・河川」(瀧健太郎、磯ちず子、田中秀子)
フィールド版	4/11	(第91回河川塾)クールシティ・Sakai、その堺北西部を見学。薫主堂、鳳翔館、のんびりクルーズ、堺浜シーサイドステージ(堺浜シャープ工場・NTC遠望見学)、土居川・環濠桜ロマンにて花見など (案内 西河)
拡大版	12/19	(第98回河川塾)宇根豊さんと映画「たんぼ」をみて農と自然を語る会 1部「たんぼ」上映 2部 講演「農のほんとうの価値」 3部 フリーディスカッション (宇根 豊)
拡大版	3/27	(第100回河川塾)記念企画 女性技術者の視点で語る「環境・河川」 特別講演:滋賀県版流域治水(瀧 健太郎) 女性技術者によるフリーディスカッション (磯ちず子、田中秀子)

3. 成果

近畿における川や水辺に関する知識を得、時の情報を共有でき、また各地での活動を知り、様々な団体との交流が図れた。

4. 今後の課題

- ・事前に講座・フィールドの希望内容を会員より収集
- ・会員・受講生より得た情報などから、不定期に新たな知見を得られるシリーズ(フィールド・講座)の設置
- ・二級河川の流域連携
など、新年度に向けた内容等を検討する必要がある。

5. その他

今後の具体の予定として、

- ・マイリバーを継続して、情報を蓄積し交流をはかり、またこれらを紹介しながら川の評価基準により表彰する
- ・河川踏査、写真・資料収集等
- ・干潟事例報告、提案
- ・環境学習の検討報告
- ・河川で合宿 フィールドワーク
- ・古老の記憶を未来へ
などを検討中である。

(報告 西河 嗣郎)

ドキュメンタリー映画「みずになったふるさと」の上映会の開催

日時：平成 21 年 5 月 30 日（土）

場所：尼崎市小田公民館

講師：谷内春子さん、高橋みはるさん

参加者の感想：

FUK さん

制作ノートその整理の良さ、すごさ、しかも美大生らしい美しさ。そのものがアート作品。

人間像、人の表情、間のとり方などと、僕は大学 3 年生のときに言えなかった。

音楽がいいな。

空を飛ぶシーンがいいな、セミのなくシーンがいいな。制作ノートを見て益々いい仕事だと思う。

制作 4 人の人生を変えたのでしょうか。人生の舞台としての環境。

MIN さん

出演者の方々の、ダムができなければ記録されることはなかったと考えられる、特別ではない日常が語られていると思います。

ダムが良い悪いは別として、ダムについて納得されている、あるいは納得しようとされている感じがしました。

KUB さん

正直な話を聞くのに時間がかかったと思います。それを実現しているのはすばらしいことだと思います。

移転した人は何世帯だったのかな。お二人の感想が感動的でした。高橋さんの「今日始めて客観的に見る事ができた」という話にも納得。

NIS さん

皆さんの素晴らしい成果、経験のお話ありがとうございました。

問：23 分の実際のサイズは？ 800 分

今後映画はつくっていかないのでしょうか？

SAK さん

インタビューの質問が録音されていると良かった。もう少し編集でわかりやすくしても良かったのでは。

ダムを作る側の記録映画もあります。参考にしてください。

私はダムを造った人間で、平成 9 年 3 月の湛水開始時にゲートを閉めました。その後毎日水位が上がっていく時、水没された方と同じとは言いませんが、複雑な思いとなりました。これが近畿水の塾に入会したきっかけになったような気がします。

FUR さん

2008 年 8 月、スプリングスで見ましたが、今回じっくり見る事ができました。

湯浅敏夫さんの考えは、直接本人から聴いており、彼の考えが現在の日吉ダム「地域に開かれたダム」につながっています。良く個人的なところを中心にまとめられました。

ダムに関わった人間として、日吉ダムだけでなく、それぞれのダムですべての人にドラマがあります。

UEO さん

一世代離れている分、当時のことを語り伝えていく気がした。

HIK さん

洪水調節にどのように役立っているのか？約 100 戸といわれていたが、日吉ダムは利水目的も兼ねており、伊丹市阪神水道事業団(尼崎市、西宮市、芦屋市、神戸市)と大阪府、京都府南部の水道用水として、利用されているが、水あまり環境、節水意識からこれだけの大きい規模のダムは必要なのか？

YAS さん

たいへんな努力、知恵や工夫をしながら、田畑を手入れして食べ物を得てきたものを、オールクリアーにしてしまう、大変なさみしい思いだったと思う。

食べ物の思い出の話を知りたかった。この映画でとてもたくさんの人とつながりができ、たくさんの方に気づいておられると思います。

TAK さん

ふるさとの土地がなくなる複雑な思い。水をためる感慨。世木ダムでの保障不足。2 回移転。得たもの(便利、安全)、失ったもの(愛着、川の音、食べ物のおいしさ)。公共施策。上下流。自給自足の村。

MAE さん

ダムづくりには必要派と反対派が必ず存在する。どちらの立場も間違いはないと思う。制作されたのはどちらの考えがあったのか？なかったのか？ダムが身近にない立場？ある立場？制作されてから何か気づき、思いがでてきたかどうか？

映画としてはおもしろかったが、前もって先に色々な情報があれば、もっと違った見方ができたかもしれない。

SUE さん

貴重な FILM の制作、本当にお疲れ様でした。

また見れる機会に感謝しています。
インタビューや撮影に伺われた皆様と、出演者の方々との間にある信頼のようなものが映像を通じて伝わってきました。
ダム計画が動き出してからの行政側と、当事者（影響を受ける方々）との間で共有された情報の、内容、構成、質に時代ながらの不足を感じました。インタビューや映像にするにあたって、皆さんはどうお感じになりましたか？
世代も経験も異なる皆さんと当事者の方々、もしダムのイメージや考えに違いがあるとしたら、どんなことだったと思われますか？

UEDさん

「下流の人に役立っている」のが、移転した人たちの救い。
災害の防止（生活）と故郷への思い（自然、文化）
生まれ育ち、思い出がしみ込んだ在所の風景、それへの思いは誰もが同じものを持っている。なくなったからより強烈か。
30年間の闘争そのものが、心の風景になっている。30年、人生の大半をそれに費やした人々の顔。
「消えてなくなる故郷、水の下に沈む故郷」今になったら当時に比べそれほど見れないけどここがわからなかった。

NABさん

もし、自分が生まれ育った町が水に沈んだら・・・そんなことを考えた。自分が育った町も今はもちろん当時と変わっているとはいえ、記憶のよみがえる場所がたくさん残っている。水に沈んでそんな場所に行けなくなってしまうのは、すごく寂しいものだろうと思う。せめて村の人たちが、昔のことを思い出せるシンボリックなものが移動させてあったり、残っていたりすれば、と思うのですが、そういったものはあるのでしょうか。また、昔をなつかしんで戻ってこられる方は多いのでしょうか。

SIRさん

長年住み慣れた場所、ふるさとが水の下に消えるのは、つらいこととあらためて感じた。失って初めて、ありがたさを感じるものなのかもしれない。

NAKさん

おじいさんが遺言として「ダムの中の元の自分の家があった場所に、散骨してほしい」と残したことで、「ふるさと」「生まれ育った場所」への思いの強さを感じます。
ダムになる前の村の様子、ダムの四季の映像が見たいなと思います。
ドキュメンタリーを撮るきっかけは？制作ノートを見て少しわかりました。

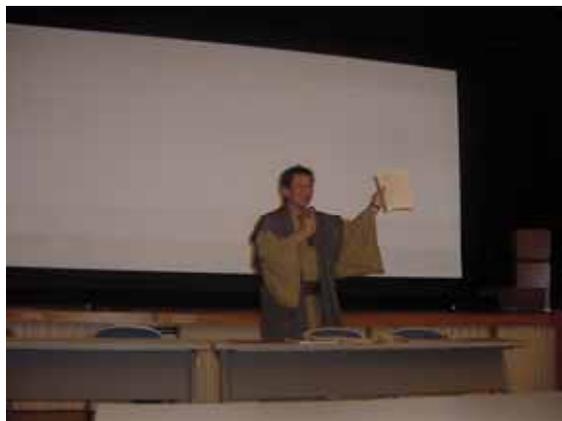
YONさん

私は生後から借家、公団、アパートと転々とし、当然、土地もなく、「家」というものに固執していません。ふるさとというものを持っている人の「ふるさと」に対する思いはあると理解できつつも、その思いがどれほどのものなのか、本当の意味ではわかりません。
今回の映像からも「思い」はわかるのですが、何かが足りない。それは自分自身の感受性かもしれない。具体的な比較例は思いつかないし、ないのかもしれない。答えが見つかりません。

NAGさん

出演されていた方々、皆さん温厚な方でしたね。村への愛着はよく伝わりました。天若湖には昨年行き、感銘を受けました（2008年8月9日アートプロジェクト2008）。夜景は美しかったです。

（感想まとめ：久保田）



近畿水環境交流会 in 木津川の開催

日時：平成 21 年 7 月 25 日(土)～26 日(日)

場所：

1 日目 相楽会館(JR 木津駅より東へ徒歩 5 分)

2 日目 木津川左岸、
泉大橋直下流河川敷(木津川市)

内容

(1 日目)

9:30 - 10:00 受付

10:00 - 12:00 オプショナルツアー

ツアー 1 鹿背山見学(案内：有限会社ランドデザイン取締役 中村伸之)

ツアー 2 恭仁宮史跡探訪(案内：京都府山城郷土資料館主査 長谷川達)

ツアー 3 木津川中流部自然観察(案内：京都大学防災研究所准教授 竹門康弘)

13:00 - 14:00 ポスターセッション

14:00 - 17:00 シンポジウム

講演「木津川流域の古代遺跡」

講師 京都府山城郷土資料館主査 長谷川達
「木津川の自然環境」

講師 京都大学防災研究所准教授 竹門康弘

活動紹介

コーディネーター まちの会 久保田洋一

淀川愛好会・摂南大学澤井ゼミ・エコシビル部、
山城里山の会、木津高校化学クラブ、木津川流域
ネットワーク、大和川市民ネットワーク

(以下進行抜粋)

澤井健二実行委員長あいさつ。

木津川市はうらやましい自然がある。維持は難しいけれども、都会に住む私たちも力をだしていきたい。昨年都賀川で事故もあった。事件もありえる。事例紹介もしていきたい。多くの団体の協力を得ている。楽しんでください。

河井規子(かわいのりこ)木津川市長あいさつ

関係者の熱い思いに感謝したい。平成 19 年 3 月合併。市の名前は木津川。関係が深い。淀川との交流あり、木津はその名の通り、木材の陸揚げ港だった。みかのはらの和歌もここが舞台。水は欠かすことのできないもの。高度成長で豊かな水環境は忘れられてきたが、その豊かな水環境をめざしたい。再発見して楽しんでほしい。

長谷川達(はせがわいたる)

私は実は地域では新参者。昨年から山城資料館に勤務。生まれ育った丹後の野田川ではアユがとれた。しかし 10 数年経つと、川の汚染が進んでいた。この木津の地には、2 万年前に人が住んでいたらしい。

ナウマン象もいたが、実は最近の研究では、3 万年前に絶滅していた。私は 2 万年前だと思っていたが、間違いかもしれない。歴史は発見と共に塗り替えられている。

おかくに神社の遺跡は、黒曜石の遺物が見つかった。しかしそこに人が住んでいたかは不明。動物が持って来たかもしれないし、誰かが落としていったのかもしれない。宇治田原では 9000 年前に土器が見つっている。しかし京都府内は全部で 3 つだけ。鹿背山椋の木遺跡では、ヒスイが見つかった。低いところにも住居があったらしい。数十年まえまでは木津川は砂地で土器がいっぱいでてきた。瓦も多くあった。井戸もでてきた。われわれの想像以上に水を利用して生きて来たのだろう。木津高校に古墳が 7、8 残っている。弥生時代の古墳や住居跡がある。

木津川は大動脈。こうづ遺跡は平城京の港跡。高級な陶器などもでている。役所とか、奈良の大安寺の倉庫などもあった。たちばなのもろえ、おおとものやかもち、などの有名な人がここを通ってきた。奈良の都は、長岡へ移転するには木津川をつかった。木津川が北へ曲がる付近に瓦がたくさんでている。恐らく沈んだ船だろう。木津川はかつて「いづみがわ」と呼ばれた。継体天皇も今の樟葉で即位。つづく(?)で都を起し、次に奈良に移ったらしい。古墳は高槻の今城塚(いましろづか)。和同開宝は木津でつくっていた。三角縁神獣鏡(さんかくぶちしんじゅうきょう)は我が国でも代表的な鏡。木津川を使って渡ってきた。古代から中世近世まで木津川が大動脈だったのだろう。古代は見えにくいですが、証拠が徐々にでてきている。



(三角縁神獣鏡のレプリカを示す！右写真です)

竹門准教授

我が国にダムは 2700 ある。ダムの計画は、実際にはできているダムのほうが多い。このままでは環境は悪くなる一方。動物の視点から話したい。

1. 多様性の要因

淀川水系は、生物の多様性が局所的に高いスポットがある。琵琶湖、巨椋池。狭さく部上流の広い河原に生き物が多い。一方で治水上は危険な箇所でも洪水被害も多かった。しかし水が出るからこそ生き物は進化した。三川合流点の三川の温度は違う。冬の温度は、桂川は合流点は 7.5 度。鳥羽の下水処理場から毎秒 20 トン 20 度の水が流れるので暖かい。宇治川は 5.9 度。琵琶湖があまり温度変化がないため、洗堰 6.7 度、合流点まで下ると少し冷える。木津川は合流点は 2.2 度。山の水は 5.0 度で、木津川の浅瀬を通過すると冷える。

木津川の特徴である裸地の砂場は、合流点から 12 から 15 キロの間では、次第に狭くなってきた。砂場は生物からみると、よい環境。かつては網状だったが、今は限定されている。有機物は増えている。生き物は多様になっている。木津川は「緩速（かんそく）」濾過装置。

フタオカゲロウは増水して、本川がたまりとつながると現れる。本川で孵化する。たまりが大切だが、本川とつながったり切れたりすることが大切。水がたまりまで達することが減っており、フタオカゲロウにとってはまずい。

チドリは砂場にしか卵を生まない。砂州の上流側でエサを捕る。有機物がたまりやすい場所で水生昆虫が多いのだろう。最近台風がきていないので、砂が減っている。それで生き物の多様性も減っている。本来の木津川の特徴が減っている。ある部分まで許容することを考えたい。

アメリカナミウズムシはベトベトなので、カワゲラが歩けない。など。1535
(その後、各団体からの活動紹介があり、交流会をしました。)

内容（2日目）

(以下のような進行で進みました。途中雨が激しくなり、心配しましたが止んでくれてほっとしました。)

- 8:30 - 9:00 受付
(木津川左岸、泉大橋直下流河川敷)
- 9:00 - 9:30 河川敷清掃
- 9:30 - 10:00 開会式、河川利用マナー講習
- 10:00 - 12:00 水面利用の実践
- 12:00 - 13:00 昼食休憩
- 13:00 - 15:00 E ボートレース
- 15:00 - 15:30 閉会式、後片付け

(報告 久保田 洋一)



E ボートレースの前の恒例の清掃活動



E ボートレース前の余裕の女性陣



突然の豪雨にびっくり。じきに上がってほっとしました。

猪名川・藻川の清流復元～水辺まつり Eボート体験

1. 趣旨

日常生活の中において水辺に親しむ機会が少なくなった大人や子供たちが少しでも水辺に親しんでもらい、水辺の生物や水辺から見た街の風景など新たな発見を体験してもらう。また、ボートに乗り、力を合わせて漕ぐことから生まれる連帯感や協調性を実感してもらう。

2. 内容

- (1) 日時 2009年9月20日(日)午前10時～午後3時00分
- (2) 場所 藻川左岸河川敷(中園橋東詰河川敷/尼崎市田能)
- (3) Eボートの数 1艘
- (4) コース
会場付近から乗船し、水管橋で折り返し帰る。1艘につきスタッフを2名配置し、1回の乗船で参加者8名が乗船。所要時間は15分程度。

3. スタッフ

- ・ 近畿水の塾 安田、白樫
- ・ 摂南大学理工学部澤井ゼミ・エコシビル部 真下 他3人

4. 参加者 乗船体験者数 12回運行 約96人

5. スタッフの感想

- ・ 川の水深が昨年より浅くなったようで、操船が大変だった。特に上流に向かって進む時は、なかなか進まず、スタッフの学生が胴長を着て、川に入りEボートを押さなければならなかった。
- ・ 狭い水域に、Eボート、筏、葦船が入り乱れ、ぶつからないように運航するのが大変だった。
- ・ それでも、乗船者が すごく喜んでくれて励みになった。

(報告 白樫 誠治)



宇根豊さんと映画「たんぼ」をみて農と自然を語る会

日時：平成21年12月19日(土)

開催場所：尼崎市立小田公民館

内容：

(まず映画「たんぼ」を上映)

その後宇根さんから、「農のほんとうの価値」と題して講演をしていただきました。

「このホールには自然があるか」という問いから話は始まりました。続いて、「農業は何%が自然か」という問いかけがあり、会場からの回答は以下のようになりました。

100%・・・0
75%・・・13
50%・・・25
25%・・・9
0%・・・4

宇根さんのお話は以下のとおりでした。

江戸時代ならば、このホールには自然がたくさんあると言う人が多いだろう。また、江戸時代は人間も自然の一部であり「じねん」と呼んでいた。自然環境を指し示す「自然」は明治20年代にできた言葉。岩波新書にあり。自然という言葉がない時は、どういふ世界かわからない。

例えば、池は自然。池から出なかったフナには自然という言葉は不要だった。概念が必要なかった。自然という概念を知ったことが不幸になったのかもしれない。でも池の中のフナになることも良いのかもしれない。

自然は人間の力で守るといふのが西洋の考え方。日本では自然を守る政策が農業では所得補償。しかし涼しい風、澄んだ水、人間と自然を分けると自然を破壊することになる。人間の手が入らない自然はなぜ価値があるのか。一生で1回もいくことがないのになぜ大事なのか。これは西洋、神様がつくったといふもの。日本の伝統文化では説明できない。

たんぼにするのは自然破壊なのか。人間と自然を分けてしまったからだろう。人工的なものになる。しかし元々は百姓にとってそういう観点はなかっただろう。自然という概念を知らなかった昔の人は、自然の摂理などは知らなかった。法則を知るかどうかではなく、別の理由があったはず。

たんぼの生き物は5470種類。800円の本です。私は知らないページ700種類知っている。昔の百姓は福井県で600種類知ってる人がいた。内容も深く知っていた。5470は科学の眼差し。全体を知る人は絶対いない。700万つぎ込んで、作った。なぜだろう。たんぼ全体がどういふ自然なのか、現在の科学はそういう発想がない。しかし600種類の生き物とつきあうことをしていた。生物多様性と

かいているけど、実は知らなかった。それが間違っていたと考え始めている。

今までは害虫しか見ていなかった。農薬を使い初めて虫見板が必要になった。たんぼの虫をみると、

害虫100

益虫300

ただの虫2100(昔は700)になる。

ただの虫は学術論文で10年前にでてきて、やっと現在まで来た。池の中のフナの視点にやっと近づいたところだろう。

科学ですべて解明できると考えていたが、今は農業も大切に、科学も大切にしたい。

Aさんのたんぼで赤トンボが1000匹いる。しかしAさんはトンボを無視している。

Bさんのたんぼで赤トンボが10匹いる。Bさんはトンボの減少を心配している。

実際はBが良いたんぼ。Aさんは何匹いるかも分からない。人間の眼差しが大事なのでは?一番衰えているのは眼差し。それを立て直さないと科学者の妄想になる。それが衰えている。

映画の中の生き物調査は、子どもを出すから格好よいが、百姓なら「暇だな」と言われる。農家の99%は生き物調査をしていない。でも必要だとは思ふ。アンケート調査して何が良かったかと聞くと、

1番目の回答は、圧倒的に多いのは、「農薬を使わない農業で生き物の状況がわかった。間違いじゃないということが確認できた。消費者にPRできる。農薬を使わないことでどうなるかが分かる。」など。これは外向けの最大の価値。

2番目の回答は、「名前を知らない生き物の名前を呼べるようになった。自分の楽しみが増えた。」私はこちらのほうが大切だと思う。池の中のフナの視点。関係が近づく。科学的な装いと、自分に言い聞かせる視点を百姓にもたらす。

この内向けのものが子どもの参加につながっている。なぜたんぼに入らせるのか。「伝えたいから」自分なりの世界観を伝えたい。たんぼに子どもを連れて行くのはそれ。しかし調査はいいかげんになる。でもそれで良いと思う。科学的な評価(近代的な評価)は金になる尺度。それ以外の行き方を百姓はすべきと思う。もしかしたら百姓以外ももっと豊かなものがあるという気もする。

では、食べ物はどうとらえるかがもう一つの課題。しかし現代はゆがんでいる。有機農業も飲み込まれている。食べ物も安全性追求が徹底しすぎて、書類ばかり増えている。書類を食べるのか。

となりのばあちゃんからトマトもらった。農薬を使っている。しかしやさしさがいいので、もらった。

農薬がのこっていると感じたが、証明書必要と言ったらどうなるか。農薬使っていない百姓が証明書を用意しなければならなくなった。五感では把握できない物質を使い始めた。感性で食べなくなった。これが農薬の最大の害悪。

農産物はどこ産地かなど、思い浮かべる。誰がつくったのだろうか。など考える。養殖だろうか。など。人間がつくったものではないからだろう。人間がつくったものは、どこでも一緒。食べ物は自然からの恵み。百姓は食べ物はつくれぬ。30年前まで「できる、とれる、なる」と言っていた。百姓は手入れするだけ。食べ物は自然からのめぐみ。その発想が私達には残っているのだから。自然からのめぐみを感じるのだからいただきますと言って食べる。

米も夏バテする。白っぽくなる。九州は米の適地でないという人もでてきた。しかし伝統的にはありがたく食べることが必要。自然と一緒に生きている価値観がなくなっていることが危機的だと思う。単なる競争に巻き込まれないように、経済優先の価値観によって、自然に沿った行き方を捨てて来ている。暴走に歯止めをかけたい。農業が生み出している自然を大切に、ただの風景を大切にしたい。人生の1、2割をさいていく人もいる。

質疑応答

古川：大井川と黒部川はへんな川。大井川はたんぼがない。魚の種類もすくない。調べたらよいか。

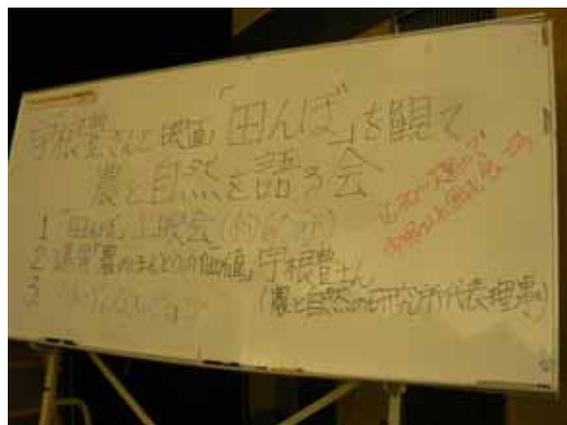
質問1点 NPO 法人2010年解散とはなぜ？

宇根：10年ががんばってみようということ。あとは百姓でぼっとうしようということ。いろんなところで生き物調査も広がったので、それぞれ考えていこうとしている。今はまとめの冊子を書いている。生き物調査は語らないといけぬ。データではだめ。物語りにする。人に語る事が大切。いろんな語りが地域を超えることが大切。科学に引っ張られることでうまくいかなかった。池の中のフナに戻るということだろう。いきものがたりを考えて行きたい。アマガエルはミカン園にいるが、田植えの時はなくなる。なぜか。たんぼに行く。生まれたたんぼに戻る。減反でたんぼをやめたら、かえるはもう1年待つ。3年が寿命。国の減反政策にのったのかなど考えて死んでいくのか。カエルと私は絆があるはずなのに。

問：ようこそ先輩で自然農法取り入れた人の話あった。無農薬はじめて科学的成果でなく経験で知っていったそう。自然農法の話はどうか。

宇根：福岡正信さんは愛媛の人。虫の専門家だったが、自然に任せることを進めた。木村さんの話も個人的な経験だから人には伝えない。脚光あびるかということ、科学的な表現をとらなくてもよい。私達はもっと広げたいと考えている。全体をよくしたい。科学の良い部分もいかにしたい。両刀づかいもありえるかも。二つの橋をかける。

(久保田)



田んぼの虫は、そのほとんどがただの虫。



最年少参加者からのお礼。

近畿水の塾河川塾 100 回記念

「女性技術者の視点で語る「環境・河川」」

日時：平成 21 年 3 月 27 日（土）

開催場所：尼崎市立小田公民館

内容：

横浜市の磯ちず子さん、福岡の田中秀子さん、滋賀県の瀧健太郎さんから報告と講演をいただき、質疑応答を行ないました。（以下概要報告です）



福岡から参加してくれた土谷さんあいさつ磯さん。「私はつなぎ役になっています」

磯ちず子さん：横浜市役所勤務。土浦出身。

森さんの話をせざるを得ない。社会運動が好きだった。飲み会に誘われた。1972 年、横浜職員になって、横浜に住むようになった。刺激を受けた。1982 年「よこはま川を考える会」に入った。

まちを歩けと言われた。仕事の悩みとして、工事に関する疑問などもでてきた。それで活動する組織を立ち上げた。先輩がいろんな視点を持っていて、土木屋さんと話して、川の上流も見ないで工事するのは疑問があった。そこで、部署にかかわらず誘い合って出掛けていた。

土木屋さんは生き物に関心がなかった。下水に関心があるのに、川に回されたという職員もいてそのことに疑問を持った。しかしホテルを見に行くと、その下流が工事する場所であることを知ってもらい、地元と話して、川がおもしろいという職員もいた。



市民が自主的に活動しており、私はつなぎ役になって、呼ばれなくても入り込んでいくようになった。以来、公私ともに関わっている。川というと流行りものに見られ易く、今は弱い感じ。

川の会としては、森さんの動きを生かしていこうと考えている。若い人も関わりだしており、ネットワークの活動をしている。未来のために、若い人をつなげることもしたい。森さんに救われたのは、「いいんじゃない」といつも言ってくれていたこと。

ネットワークが大切だと考えている。いろんな場でお会いしたい。

福廣：会報は欠番があります。ご了解を。定例研究会 307 回。ホテルとトンボがテーマですね。

田中秀子さん

有明海は 7 m という潮位差がある。なりとみひょうごという人が関わった。昨 2009 年、城原（じょうばる）川が堤防を越えるのを初めて見た。大潮と大雨が重なり、水位があがり、野越（のこし）を洪水が越える時は避難が基本。しかし水が越えても、受け手を越えることはなく、集落には水が入らない。下流は川裏に水が流れていた。氾濫することで下流の堤防を守っていた。野越が堤防を守ったのだ。しかし現在も工事方法は変わっていない！

野越は、人が住むところは守っている。水は田圃にじわじわ入る。平行にたまる。氾濫することが灌漑になっている。これは洪水の活用であり、洪水の受容ではないと感じている。野越の上に立って、水が越える体験をしてよかったと思っている。

福廣：今年で 32 年の筑水研（ちくすいけん）の記録はすごいです。



田中さん。昨年野越を水が越えるのを見ました。瀧さんの発表の一部。第 4 世代治水がこれからの治水です。

瀧健太郎さん

1972年生まれ。十三など大阪育ち。嘉田知事からは、実感を理屈で説明せよと言われている。先日は兵庫県、大阪府、熊本県などの方がこっそりきいている。

第1の時代 (既往最大洪水)	既往最大の洪水を、洪水を起こすことなく、河道と貯水池で処理する。
第2の時代 (確率洪水)	治水施設の設計外力を年最大降雨量の超過確率で評価し、一定の確率規模をもつ降雨を計画降雨量として、この降雨から生み出される主様の洪水波形を、洪水を起こすことなく、河道と貯水池で処理する。
第3の時代 (総合治水)	雨水が河道に入った後に処理するという対策に加えて、河道に流入する雨水そのものを減少させるという対策をも、計画の代替案に定める。
第4の時代	洪水被害を前提として考え、代替案は、河道一流域施設だけでなく、氾濫原の被害軽減策も考慮に入れる。(河川計画と河道が計画対象であった治水計画を、氾濫地となる氾濫原を含めた流域全体を対象とするものに拡大)

治水の流れは4世代。第1世代は既往最大洪水、第2世代は確立洪水、第3世代は総合治水。第4世代は氾濫を前提とする。この代替案は緑のダムとか、遊水池とか、あふれてからの被害軽減も考える。実は昔から国の審議会などで言われている。何度も答申されるのに、実際は動かなかった。しかし最近、地球温暖化やゲリラ豪雨を強調して説明していることは、あふれさせる治水を言いたいのだろう。

昔、どうしたら助かったかなど、調査もはじめている。

新しい治水を考える指標は、「治水安全度」から「地先の安全度」に変えるということ。まずは自分の家がいかに安全かという考えを大切にす。

リスクは発生確率と被害の大きさによる。今は、効果が高いのにやらないのはおかしいというのが、宮本さんが言っていること。

いままでは発生確率を下げるのが目標だった。しかし「被害の程度を考えると、あふれる治水」しかない。昔は水利用を考えるために、築堤した場合もありそう。

住民実感を理屈で説明するために考えた。対処療法つづきでは全体的に悪くなる。地域防災力はイベントをしているほうが防災力が高い。(以下略)

質疑

磯：子ども達との取り組みにより動きを感じた。横浜では学校の事情で市の職員がでていくことがまだまだ。カヌーで遊ぶ中で防災も考えたらよいと思う。

田中：今なぜ昔の治水ができないか考えた。霞堤は水で水を制するしくみがある。自治体の方が水防を引き受けるという姿勢をもつことが感動ものだった。

瀧：滋賀県で実現しているわけではない。ちょっとずつ土日に土木事務所に行ったりしている。苦節3年。なかなか変わらない。嘉田さんが流域治水政策室つくって、最初はたんぼがダムの代わりにならないかと考えた。しかし3年してそれは無理

だとわかってきた。あふれさせる治水しかない。上田：寝屋川の取り組みを滋賀県で発表してきた。知事がこういう方向性を出したあとでの職場の雰囲気はどうなのだろう。

瀧：4年たってやっと変わってきた感じ。組織と人事をきめるのはすごいと思う。土木事務所は、やっと研修に行くようになってきている。

久保田：野越と滋賀県のあふれさせる治水の違いは？

田中：洪水がこえたときに、から川に流れる。かすみがあるところは一番危ないところ。水が越えたと、たんぼはその後には肥沃になる。職場ではなかなか理解してくれなかった。筑水研でしか言う場がなかった。島谷さんが所長のときに、やっとわかってくれた。あとは自分の時間で発表してきた。

石塚：都市計画している。まちづくりで、地形とか川とかは考慮していなかった。河川担当がいれば興味深いだろう。非常におもしろいと感じる人は多いだろう。戦国武将は強い意志があったのだろう。昔の再現だけでは無理だろう。どういう地域を考えているか？リスクと確率では、甚大な被害を減らすことは、津波を考えると重要では。

瀧：壊滅的な被害はぜったいに起こしたくない気持ちが高い。人命を守ることが必要。命だけは大阪の人と同じくらい守りたいということ。200も500も1000も同じ。一定の被害は広がらない。200は無敵大と同じ。2階にいれば大丈夫という感じ。滋賀県をどうするかについては、都市計画分野までは考えていない。今の滋賀県がいいと思っている。いままで足りなかったものを増やして、皆がすきなまちづくりができるための土台をつくりたい。水害からみたときのまちを考えている。

木村：ハザードマップは怖いと思う。自助共助公助とあるが、地域コミュニティは例えば横浜ではどうか。

瀧：ハザードマップは役にたつのか。出たものはしかたないので、自分達で考える役に立ててほしい。役にたないと考えると考えるようになるのでは。市町は喜んでくれる。しかし作り方がきまっているので、このえと浸水想定区域を重ねるようにしている。起こられないようにしている。

磯：コミュニティの現状は地域によって違う。私は団地。中心部は年齢が高い。安易な広報としては、従来の自治会をつかっている。多様なコミュニティができていく気はする。福祉系など。つながるようにしていきたい。防災では関心は高いはず。

福廣：瀧さんの4回子ども講座はよかったと思う。入江：流域治水で山の保水力をどう考えるか。

瀧：保水力は勉強した。貯水量だけでダムに対抗するのは無理。佐用町に勝手に行ったが、その時に、今までと違うほったらかしにした山から水がながれてきた。森林の保全はもっと大事だったかも

しれない。貯水だけを考えるのではない。

福廣：森林税は、四出井先生は反対だと言っていた。山は下流の人のためにあるのではないと言われた。

高畑：佐用町の話だが、伐採木放置は、出すこともできない状況。間伐しても出せない。佐用町も林業の人が悪いのではない。山の部分でいうと土石流災害が多かった。やっと落ち着いてきた。しかし危険区域指定が進むが、住民は安全と思っている。ニュータウンも住民は説明している。しかし基準は一律。植生は回復しているのに、また住民の話を書く必要があると思うのだが。

瀧：今日の資料も出したいと考えている。勇気をもって踏み出していけるはず。杓子定規にきめているが、運用は地元自治体で可能では。覚悟のうえということ。国は国で法律をきめているので、いつかは変えたいが、そのまま適用するのではなく、地域によりそいながらいくことは必要では。

福廣：瀧君は伊勢湾台風の経験のある人に声を聞いてよかったと思う。磯さんも田中さんも活動してきたことが、瀧さんの登場になった。最高の広報マン。信頼される役人になったのではないか。説得し易いのは女性的発想だと思った。姫野さんからのメール紹介。第十堰は残すことになった。やっとほっとしました。晴れて釣り人に戻ります。との話でした。

（報告 久保田 洋一）

ホームページの作成・更新等についての事業報告

1. はじめに

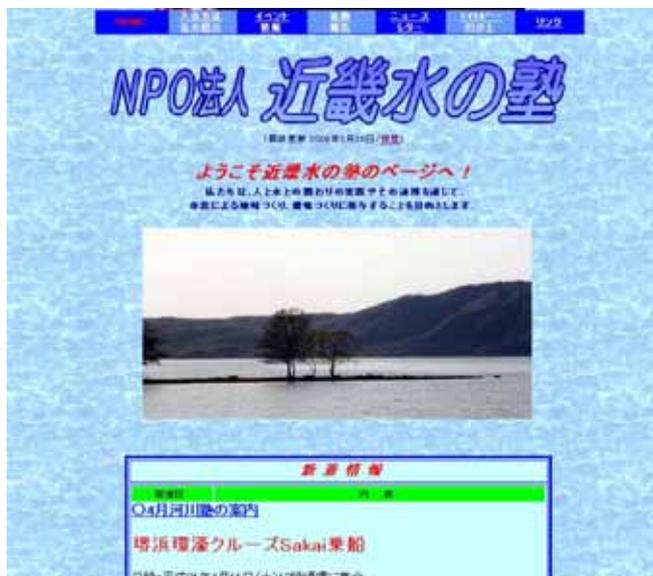
当会では平成14年9月15日にホームページを立ち上げ、会の概要、入会方法、事業内容、活動報告などを公開している。

また、会員はメーリングリストに登録し、会員間の情報交換を常に行っている。

2. 実施内容

ホームページの内容は以下のとおり

- (1) 当会の概要等
 - ・ 入会方法
 - ・ 設立の経緯
 - ・ 会員紹介のコーナー など
- (2) イベント情報
 - ・ 当会主催のイベント案内
 - ・ 河川塾案内
 - ・ 他団体のイベント案内
- (3) 活動報告
 - ・ 当会の活動報告
 - ・ 河川塾通信
 - ・ 新聞記事掲載
- (4) リンク集
 - ・ 水環境等の市民団体等のリンク集



<http://www.geocities.jp/npokinkimizunojuku/>
ブックマークをお願いします。

(報告者：安田 博之)

3. 成果

平成21年4月から22年3月までの1年間で13回の更新(通算で147回)を行い、常に最新情報を発信した。過去の報告も掲載しているので、会員の資料室としての利用もされている。

4. 今後の課題

- ・ イベントの案内だけでなく、川に関わる活動をしている団体や個人の紹介をするなど内容を充実させる。
- ・ 他のホームページにリンクしてもらい広く閲覧してもらうように工夫する。当会のリンク集も充実させる。

河川塾 内容一覧

場所：河川情報センター 6 F 会議室（第49回まで） 環境情報センター（第49回から）

回	日時	講師 & テーマ
第1回	平成12年 11月30日(木)	第1限 定例講義 (澤井)「河川学原論」その1 『河川とは、「望ましい」川の姿』 第2限 川の情報交換 (白木)『澤井先生のマイリバー 日野川』 大阪府での『水辺の学校』、『流域懇談会』開催状況(野添) 『よこはま かわを考える会ニュース』の紹介(福廣)
第2回	12月21日(木)	第1限 新シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」番外編 『木曽川 自然共生研究センターと河川環境楽園』 第2限 定例講義 (澤井)「河川学原論」その2 『流域と氾濫域、川の定量的な捉え方』 第3限 川のなんでも情報交換会 話題提供 「川に学ぶ」シンポジウムin近畿(足立) 『川のなんでも市』のふりかえり 河川審議会計画部会中間答申(勝山) 「流域での対応を含む効果的な治水のあり方」 平成12年度大阪府河川協会講演会の開催について(野添)
第3回	平成13年 1月18日(木)	第1限 シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」『春木川・津田川と近木川』 第2限 定例講義 (澤井)「河川学原論」その3 『普通の川 現実の川における問題点』 第3限 特別講義 水資源開発公団(福田)『河川災害について』 第4限 川のなんでも情報交換会 『流域での対応を含む効果的な治水の在り方について』(西下) 『石川で遊ぶ バードウォッチング in 石川』(勝山)
第4回	2月15日(木)	第1限 シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」 『澤井先生のマイリバー = 日野川の池作りに参加してきました』 第2限 徹底討論 『マイリバーとの関わり ... 日野川の池作りを例として』 第3限 川のなんでも情報交換会 『第4回淀川討論会』のお知らせ(2/24)(澤井) 『進めよう、いのちあふれる都市づくり～神戸地域生物多様性保全シンポジウム～』のお知らせ(2/24)(安田) 『春木川・轟川市民のつどい』のお知らせ(3/4)(白木江都子) 『川の世界 加古川』加古川を題材にした総合学習の副読本のご提供(田中)
第5回	3月15日(木)	第1限 自習 (澤井先生定例講義休講のため) 「川のH条件」森下郁子 他ノ著『陸水生態学からの提言』～魚の「すめる」川から魚の「すむ」川へ 第2限 シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」『南河内 石川』
第6回	4月19日(木)	第1限 情報提供 (木村) 報告「近畿 川ものがたり」 第2限 定例講義 「河川工学」基礎編(澤井) 河道の中の流れについて 第3限 「川と人とのつきあい方」 第4限 「河川に関するQ&A」 第5限 話題提供 (岡田)「Landscape Kansai」(春号)
第7回	5月15日(火)	第1限 定例講義 「河川工学」基礎編2 ～土砂が動く～ 第2限 Q & A コーナー及び情報交換
第8回	6月19日(火)	第1限 定例講義 『河川工学』基礎編 - 3 第2限 「川に関するQ&A」「川のお悩み相談室」「情報提供」
第9回	7月17日(火)	第1限「赤目エコリゾート」合宿の報告 第2限澤井塾 小学校3年生に対する授業メモを元に意見交換会 第3限春木川の河川改修 第4限その他
第10回	9月8日(土) 名張 土谷邸	8月21日(火)台風11号のため、中止となり9月8日が第10回となる (1)澤井先生の『Eポート』 【川に学ぶ!】 「シンポ1周年!」 「シンポふりかえり!」

河川塾 内容一覧

場所：河川情報センター 6 F 会議室（第49回まで） 環境情報センター（第49回から）

回	日時	講師 & テーマ
第11回	10月16日(火)	第1限 情報提供 『川に学ぶ体験活動発表交流会について』川に学ぶ」シンポふりかえり等 (参加者の中での自由なフリートークの時間)
第12回	11月20日(火)	第1限 シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」『河内 - 長瀬川』 第2限 定例講義 『河川工学』基礎編 - 4 (澤井)
第13回	12月18日(火)	座談会 + 忘年会
第14回	平成14年 1月22日(火)	第1限 シリーズ 「近畿の川～探訪」 『泉州 槇尾川』 第2限 定例講義 『河川工学』(澤井)
第15回	2月19日(火)	フリータイム 『川』のおしゃべりタイム(情報交換) 第1限 定例講義 『河川工学』(澤井) 第2限 「私の好きな川、嫌いな川アンケート」
第16回	3月13日(水)	いってらっしゃい、土谷さん! 大々壮行会 主 催:(仮称)『近畿水環境ネットワーク』準備会
第17回	4月17日(水)	4月から第3水曜日に変更いたしました 新シリーズ 『マイリバー紹介』堺市 土居川(その1)(西河)
第18回	5月22日(水)	新シリーズ プレゼンテーション 『マイリバー紹介』堺市 土居川(その2) (西河) 第1限 フリーディスカッション 『土居川について』 第2限 講 評 『川の学校』(澤井)
第19回	6月19日(水)	新シリーズ プレゼン 『マイリバー紹介』堺市 土居川(その3)(西河) 第1限 フリーディスカッション 『土居川について』 第2限 講 評 『川の学校 土居川編』(澤井)
第20回	7月17日(水)	シリーズ プレゼン 『マイリバー紹介』 三重 名張川(その1) (川上・福廣) 第1限 フリーディスカッション 『名張川について』 第2限 講 評 『川の学校 名張川編』(澤井)
第21回	9月18日(水)	シリーズ プレゼンテーション 『マイリバー紹介』 三重 名張川(その2) (川上・福廣) 第1限 フリーディスカッション 『名張川について』 第2限 報 告 会 「川の日ワークショップ」 グランプリ 寝屋川再生ワークショップ(澤井) 準グランプリ 牛滝川(野添)
第22回	10月16日 (水)	シリーズ プレゼンテーション 「NPO法人 近畿水の塾」 理事長 福廣さん 副理事長 澤井さん 第1限 報 告 会 1 「大阪 川めぐり」(古川) 第2限 報 告 会 2 『第2回川に学ぶ体験活動発表 交流会in北九州』(川上)
第23回	11月20日(水)	第1限 シリーズ マイリバー紹介 「近木川 汽水ワンド」(白木) 第2限 報 告 会 『第2回川に学ぶ体験活動発表交流会in北九州』(福廣)
第24回	12月18日(水)	特別シリーズ 流域間交流会 「大阪府 石川と近木川」(寺川・白木) 川における市民と行政の協働とは?・ミニワークショップ開催
第25回	平成15年 1月13日(月・祝)	河川塾フィールドワーク 「大阪府 石川」 - (勝山) 石川流域講座生との意見交換会
第26回	2月16日(日)	河川塾フィールドワーク 「大阪府 近木川」 - (白木)
第27回	3月12日(水)	マイリバーふりかえり 九州川の日ワークショップ松浦川の報告(福廣)
第28回	4月16日(水)	河川関連法についての自主学習 「自然再生法ってどんななん?」 レポート 「淀川 平成ワンドと木工沈床工」

河川塾 内容一覧

場所：河川情報センター 6 F 会議室（第49回まで） 環境情報センター（第49回から）

回	日時	講師 & テーマ
第29回	5月21日(水)	河川関連法についての学習会 第1限 - 講義 - 「自然再生推進法の解説」 講師：大阪府環境農林水産部 池口主査 第2限 全体討論会 「自然再生推進法とは？」
第30回	6月18日(水)	「水辺空間と人の関わり」 京都造形芸術大学 学生チームの木津川精華町での調査発表会（下村）
第31回	7月16日(水)	「近木川 自然再生事業」 大阪府貝塚市近木川での自然再生事業に向けての課題・取り組み方（白木）
第32回	8月20日(水)	「近木川 自然再生事業」 大阪府貝塚市近木川での自然再生事業に向けての課題・取り組み方（澤井）
第33回	9月17日(水)	第1限.「近木川」 第2限.「私の水辺」大発表会 2003～水辺や水辺活動の評価手法、評価基準を考える～
第34回	10月15日(水)	第1限 - 第4回全国源流シンポジウム in 高津川大会 報告（福広） 第2限 マイリバー紹介 尼崎市「庄下川」（安田）
第35回	11月22日(土)	リバーウォッチング庄下川 よみがえれ庄下川～川・人・街の風景～（午後1時～5時）
第36回	12月17日(水)	北桂川の流域見聞について（下村）
第37回	平成16年 1月21日(水)	流域委員会シリーズ 淀川水系流域委員会「意見書」を読む ～淀川河川整備計画基礎原案から（1）～（澤井）
第38回	2月18日(水)	流域委員会シリーズ 淀川水系流域委員会「意見書」を読む ～淀川河川整備計画基礎原案から（2）～（澤井）
第39回	3月17日(水)	河川塾フィールドワーク 摂南大学実験視察 ～近木川汽水ワンド実験～
第40回	4月21日(水)	流域委員会シリーズ 淀川水系河川整備計画策定について ～流域委員会の活動について（1）～（川上）
第41回	5月19日(水)	マイリバー 寝屋川再生ワークショップからの報告（上田、澤井、久保田）
第42回	6月16日(水)	流域委員会シリーズ 淀川水系河川整備計画策定について ～流域委員会の活動について（2）～（川上）
第43回	7月21日(水)	シリーズ 大和川を語る ～都市河川としての大和川の過去・現在・未来～（角野）
第44回	8月18日(水)	レポート 大和川・淀川流域連携水環境交流会2004 新潟・福井水害
第45回	9月15日(水)	歴史と文化の中の川づくりを考える ～近畿水の塾への期待、役割～（角野）
第46回	11月17日(水)	水資源と環境 ～淀川水系の水資源の量と質～（大阪府立大学荻野教授） 10/20の河川塾は台風23号の接近で中止になりました。（被害を受けられた皆さまには心よりお見舞い申し上げます。）
第47回	12月15日(水)	シリーズ NPO活動と市民協働の実態 ～三島グランドワークにおける政策自主研究報告（速見）
第48回	平成17年 1月19日(水)	シリーズ NPO活動と市民協働の実態 ～NPO法人里山倶楽部の紹介～（寺川）
第49回	2月17日(木)	シリーズ 堺7-3区共生の森の活動紹介（速水）
第50回	3月16日(水)	シリーズ 浜寺水路でのコンブ育成実験（前田）
第51回	4月27日(水)	シリーズ おおさかレインボウプロジェクト ～雨みずからはじめる豊かなまち～（足立）
第52回	6月22日(水)	シリーズ 都市と農の共生する地域 （まち）づくり都共生ネットこうべ(非営利組織) 本位田 有恒氏
第53回	8月31日(水)	流域委員会シリーズ 淀川水系流域委員会からの報告（澤井）
第54回	9月28日(水)	シリーズ 寝屋川再生ワークショップからの報告（久保田、澤井）

河川塾 内容一覧

場所：河川情報センター 6 F 会議室（第49回まで） 環境情報センター（第49回から）

回	日時	講師 & テーマ
第55回	10月26日 (水)	流域委員会シリーズ 淀川水系流域委員会からの報告(その2)(澤井) 於：琵琶湖・淀川水質保全機構(BYQ)4階会議室
第56回	11月26日 (土)	河川塾フィールドワーク ～寝屋川駅前せせらぎ広場と点野ワークショップ見学～(上田、澤井)
第57回	12月27日 (火)	レポート 都市のウォータースケープ計画に関する国際ワークショップ ～水によみがえる懐かしい未来都市 堺～(久保田)
第58回	平成18年 1月25日(水)	マイジョブ&マイリバー 水の家からウォーターサロンへ BUD代表 上岡康宣氏 於：ウォーターサロン
第59回	2月22日(水)	シリーズ 琵琶湖・淀川水系での水環境保全 ～BYQの取組みについて～(河野) 於：琵琶湖・淀川水質保全機構(BYQ)4階会議室
第60回	3月22日(水)	近畿水の塾や河川塾の一年をふりかえるワークショップ ファシリテーター：久保田
第61回	4月25日(火)	マイジョブ&マイリバー 水と人と自然 竹尾敬三
第62回	6月28日(水)	流域委員会シリーズ 淀川水系流域委員会からの報告 ～河川整備計画基礎案に係る事業進捗状況の点検～ 澤井健二
第63回	7月27日(木)	シリーズ 芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク」の取組み TKK自然観察会代表 田口圭介氏、中山香代子
第64回	8月22日(火)	マイジョブ&マイリバー 日本とドイツの水の使い方の差、ヴァーチャル・ウォーター、 地球温暖化について 疋島巖
第65回	9月26日(火)	レポート 水郷・水都全国会議大阪大会から得たもの(ここだけの話) 久保田一、久保田洋一
第66回	10月24日 (火)	マイジョブ&マイリバー 道頓堀川を中心として変わりはじめたミナミ 有限会社エイライン 横山 葵氏
第67回	11月29日 (水)	マイジョブ&マイリバー 仕事の広がり、人つながりから 白木江都子
第68回	12月26日 (火)	シリーズ 公共交通機関としてのLRTの可能性について 石塚昌志
第69回	平成19年 1月23日(火)	マイジョブ&マイリバー 環境調査の実状 米花正三
第70回	2月28日(水)	拡大版河川塾 LRT試験線(トランスロール)試乗、研修センター見学など 案内 石塚昌志
第71回	3月20日(火)	マイジョブ&マイリバー 真言宗醍醐派総本山「醍醐寺」全山改修30年計画 磯貝猛
第72回	4月26日(木)	マイジョブ&マイリバー 高瀬川のほとり 京都樽屋「樽徳」会長 宮本 博司
第73回	6月28日(木)	マイジョブ&マイリバー 自然と文化の森協会の活動紹介と猪名川自然林の植生調査から 白樫 誠治
第74回	8月28日(木)	マイジョブ&マイリバー 武庫川流域委員会での私の思い 松本 誠(武庫川流域委員会委員長)
第75回	9月25日(木)	マイジョブ&マイリバー NPO・行革と公益法人改革の流れから 末村 祐子(大阪経済大学客員教授)
第76回	10月23日(木)	マイジョブ&マイリバー 私の環境年表～行政経験を中心として～ 南 隆雄
第77回	11月27日(木)	マイジョブ&マイリバー 天若湖アートプロジェクト これまでとこれから 下村 泰史&さとうひさ彥(アートプランまぜまぜ)
第78回	12月25日(木)	マイジョブ&マイリバー マイリバーとマイチャリンコ 西村 浩一(毎日新聞編集委員)
第79回	平成20年 2月23日(土)	マイジョブ&マイリバー 指定管理者制度の功罪、今後のあるべき姿など 樋熊 浩明(西武造園株式会社) 於 アピオ大阪4階松の間
第80回	3月25日(火)	マイジョブ&マイリバー 寝屋川市における環境用水の可能性 山本 智志
第81回	4月23日(水)	マイジョブ&マイリバー 自然環境復元は、人間性の回復だ!! 前田 誠一郎 於 大阪駅前第2ビルキャンパスポート大阪

河川塾 内容一覧

場所：河川情報センター 6 F 会議室（第49回まで） 環境情報センター（第49回から）

回	日時	講師 & テーマ
第82回	6月24日（火）	マイジョブ&マイリバー 川づくりの最前線 小俣 篤
第83回	7月22日（火）	流域委員会シリーズ 川への思いと企画シンポジウム「全国川シンポ」への期するもの、 広報 今本博健（京大名誉教授・元淀川水系流域委員会委員長）
第84回	9月6日（土）	古老に聞くシリーズ 第1回「おじいちゃんの仕事、おばあちゃんの暮らし」ヒアリング 名張市下比奈知鈴木幹子さん宅にて 鈴木幹子さん、紀さん、雄治さん
第85回	9月30日（火）	マイジョブ&マイリバー 上下流の住民交流の必要性について 久保田 洋一、寺川 裕子
第86回	10月21日（火）	流域委員会シリーズ 猪名川自然林の保存運動、流域委員会での経験特に一流域住民が流域 委員会に加わることの意味、藻川の堤防を考える会の活動など 細川 ゆう子氏（元淀川流域委員会）
第87回	12月22日（月）	マイジョブ&マイリバー 百姓見習い～ある都市農家長男による稲作記録の報告～ 安田 博之
第88回	平成21年 1月27日（火）	マイジョブ&マイリバー 水と共に暮らす事の意味 福廣 勝介
第89回	2月24日（火）	マイジョブ&マイリバー 環境モデル都市・堺 船本 浩路
第90回	3月24日（火）	マイジョブ&マイリバー 数値解析による上野遊水地の洪水調節効果に関する研究、 ボクの遊んだ川とたんぼ 村田 遼介
第91回	4月11日（土）	フィールド版河川塾 クールシティSakaiの関連計画の多い、堺市北西部のまちを見学 案内 西河 嗣郎
第92回	6月26日（金）	マイジョブ&マイリバー ピコ水力発電の現状 竹尾 敬三
第93回	7月21日（火）	マイジョブ&マイリバー 地域環境デザインとしての桂川流域ネットワーク 下村 泰史
第94回	8月20日（木）	マイジョブ&マイリバー 新たな公による地域づくり 石塚 昌志
第95回	9月29日（木）	マイジョブ&マイリバー 神戸つれづれエコアップ 田中 充
第96回	10月28日（水）	マイジョブ&マイリバー 低炭素社会に向け東吉野村と行う地域連携について 船本 浩路 (堺市環境都市推進室)
第97回	11月24日（火）	マイジョブ&マイリバー 米国のダム撤去と日本初の赤谷ダム撤去、そして石津川 太田 勝之（リバーポリシーネットワーク代表）
第98回	12月19日（土）	拡大版河川塾 於 尼崎市立小田公民館 宇根豊さんと映画「たんぼ」をみて農と自然を語る会 宇根 豊（農と自然の研究所 代表理事）
第99回	平成22年 1月26日（火）	マイジョブ&マイリバー 滋賀県版治水政策 瀧 健太郎（滋賀県流域治水 政策室）
第101回	2月25日（木）	マイジョブ&マイリバー 古代大阪の治水事業 藤井 薫
第100回	3月27日（土）	拡大版河川塾 於 尼崎市立小田公民館 河川塾100回記念 女性技術者の視点で語る「環境・河川」 瀧 健太郎（滋賀県流域治水政策室） 磯ちず子（横浜市）、田中秀子（国土交通省）

河川塾 番外編・拡大版

平成13年2月12日(月)午前10時から午後5時 澤井先生のマイリバー『日野川』 日野川の河川敷に手づくりの親水空間 『ピオトープの池』を作ろう!
平成13年6月30日(土)~7月1日(日) 三重県名張市『赤目の森 エコリゾート』他 赤目の森ハイキング NPO「赤目の里山を育てる会」の活動講演 赤目の里でホテル観察会 澤井河川塾 大討論会 探索 名張川 まちかど散歩 『名張』 e t c . . .
平成13年5月27日(日)午前10時~ 澤井先生のマイリバー『日野川』 日野川の河道内に人工的な交互砂州を作ってみる! L = 約200mの実験区をつくり、梅雨時の変化状況を調べる。
平成14年4月14日(日)午後3時~5時5月19日(日)午後2時~4時 現地見学会 『マイリバーに出かけよう!』 堺市二級河川 内川水系土居川
平成14年10月12(土) フィールドワーク第1弾「大阪 川めぐり」(古川)
平成14年12月1日「私の水辺大発表会」第2次発表会(ドーンセンター) 近畿水の塾参加発表
平成15年4月3日(木)13:00~17:00 河川塾フィールドワーク 大阪府 淀川 ~淀川長柄橋上流右岸木工沈床見学会~ (澤井)
平成15年4月23日(水)18:30~21:30 「柳川堀割物語」ミニ上映会 交流会 21:30~
平成15年7月21日(祝)11:00~16:00 フィールドワーク 「木津川 水辺空間と人の関わり」 京都造形芸術大学 木津川チーム の取組み
自然再生連続シンポジウム 第1回 平成16年2月22日(日)12:30~15:30 於:NPOプラザ 「法に託された思いと可能性」 話題提供:佐藤寿延さん(環境省)、恵小百合さん(江戸川大学) 第2回 平成16年3月13日(日)13:30~16:30 於:UFJ総研 「自然環境権と自然再生推進法」 話題提供:池上徹さん(弁護士)、佐藤寿延さん(環境省) 第3回 平成16年4月24日(土)13:30~16:30 於:UFJ総研 「自然再生推進法をどう使おう?」 参加者全員によるディスカッション
平成16年10月30日(土)13:30~ 於:大阪府環境プラザ 「旭川源流の碑」の活動 竹原和夫さん(旭川流域ネットワーク)
平成17年2月26日(土)13:30~ 於:大阪府環境プラザ ワークショップ&交流会 ~近畿水の塾振り返り~ (話題提供)舞岡・世田谷まちづくり委員会の活動から指定管理者制度について(佐藤)

平成17年11月12日(土) 於：尼崎市立小田公民館
 技術の自治とは？～市民も参加する公共事業～ 映画「阿賀に生きる」を監督と観る
 1部 12:30～15:00 「阿賀に生きる」上映と解説
 2部 15:15～17:00
 (講演)「技術の自治とは？～市民も参加する公共事業～」
 (講師)大熊孝氏(新潟大学教授・阿賀に生きる製作委員会代表)
 (ゲスト)佐藤真氏(「阿賀に生きる」監督・京都造形芸術大学教授)

平成17年11月26日(土) 河川塾フィールドワーク(第56回河川塾)
 ～寝屋川駅前せせらぎ広場と点野ワークショップ見学～
 1部 12:00～ 寝屋川駅前(西側)せせらぎ広場見学
 2部 13:30～16:00 ワークショップ見学
 於：摂南大学スカイラウンジ(11号館11階、第5会議室)
 案内：(寝屋川市役所)上田氏、(摂南大学工学部)澤井氏

平成19年2月28日(水) 拡大版河川塾(第70回河川塾)
 ～堺浜 LRT試験線(トランスロール)試乗、研修センター見学など
 1部 14:20～ 堺浜 LRT試験線の説明と試乗
 2部 16:10～ 大小路 LRT研修センター見学
 3部 17:15～ 阪堺電気軌道(チンチン電車)にて 石津駅「さかなや」にて懇親会
 案内：(堺市役所)石塚氏

平成19年6月2日(土) 14:30～16:00 於 環境情報プラザ 総会終了後 記念講演
 高槻のローカルヒーローが語る！市民活動37年の足跡 田口圭介氏

平成19年7月14日(土) 14:00～17:00 於 アピオ大阪4階竹の間
 中村 轟(ひとし)さんに聞く ～ブラジル・クリチバの夢～ 裏話や失敗話も

平成20年9月6日(土) 河川塾フィールド版(第84回河川塾)
 第1回「おじいちゃんの仕事、おばあちゃんの暮らし」ヒアリング
 ～主に、名張川の環境、名張川との暮らし今昔を聞きました～
 1部 13:30～16:00 ヒアリング
 2部 16:00～18:00 懇親会
 3部 17:00～17:30 休憩・テレビ放映鑑賞
 名張市下比奈知鈴木幹子さん宅にて
 話し手 「鈴木のお母さん」=鈴木幹子さん(79歳)
 「そば紀さん」=鈴木紀さん(68歳)
 「ゆうさん」=鈴木雄治さん(65歳)

平成21年4月11日(土) フィールド版河川塾(第91回河川塾)
 次世代公共交通機関LRTや堺浜へのシャープ関連工場進出、国内最大級のサッカートレーニングセンター(NTC)、阪神高速道路大和川線など、その多くがクールシティ・Sakaiの関連計画に位置付けられている堺市北西部のまちを陸から川から見学した。
 1部 13:00～堺市役所市民広場～阪堺線(チンチン電車)大小路駅から高須神社駅へ。徒歩にて薫主堂(線香屋)、鳳翔館(古民家のギャラリー)へ～阪堺線綾ノ町駅から大小路駅下車、堺駅乗船場で「のんびりクルーズ乗船」～堺浜シーサイドステージにてシャープ工場・NTC遠望見学
 2部 18:00～土居川・環濠桜ロマンに参加(ライトアップした桜並木で花見。地元戎島自治会の人たちとBBQで交流)
 案内 西河

平成21年12月19日(土) 拡大版河川塾(第98回河川塾) 於 尼崎市立小田公民館
 宇根豊さんと映画「たんぼ」をみて農と自然を語る会
 1部 13:00～14:00 「たんぼ」上映会
 2部 14:15～16:00 講演：農のほんとうの価値 宇根 豊さん(農と自然の研究所代表理事)
 3部 15:30～16:00 フリーディスカッション
 居酒屋「大黒」にて懇親会と忘年会

平成22年3月27日(土) 拡大版河川塾(第100回河川塾) 於 尼崎市立小田公民館
近畿水の塾の主要事業の河川塾は、2000年11月30日に第1回「河川学原論『河川とは～望ましい川の姿』」に始まり、年に数回は拡大版として、休日に現地視察、聞き取り調査、講演会などを行ってきた。テーマは河川や水環境に始まり、森林、生物、地球環境、一次産業、さらに暮らしや文化まで様々で、多方面から講師を招き、あるいは会員講師で、共に学んできた。
この度、約10年を経て、100回目の河川塾の開催を迎えることになった。環境敏感は女性という事で、これを記念して女性技術者の視点から環境を語ってもらうこととし、長く市民活動と共に環境仕事に関わって来られた横浜市職員で「よこはまかわを考える会」で活躍された礒ちず子さん、国交省九州地整局で城原川をライフワークにされてきた田中秀子さんを迎え、話を聞いた。話の川切りは、第98回の河川塾の講師で、再演リクエストの多い瀧健太郎さんに「滋賀県版流域治水」を特別講演して頂いた。

河川塾第100回記念 女性技術者の視点で語る「環境・河川」
特別講演：滋賀県版流域治水 瀧健太郎さん(滋賀県流域治水政策室)
女性技術者によるフリーディスカッション
礒ちず子さん(横浜市職員)、田中秀子さん(国土交通省職員)
居酒屋「大黒」にて懇親会